

# 雪女

mongoloi'z 公演作品

作／田口浩一郎

舞台上に4人の男達。一人は雪蓑ゆきみの、一人は白い経帷子きようたひらをかけ、一人は鉈なたを持っている。鉈を  
持った一人がタイトルを口にする。

男3 雪女。

男1、2、3、突然笑い出す。男4は憂鬱そうに下を向いている。

男1 見たかい？このミノキチ(男4)の姿をよ。

男2 ああ、よだれたらして呆けちまつてさ。

男1 こいつあキチガイだぜ。

男3 カンナギ様に触るなの、無礼した奴は子孫七代崇こまじられるのと。

男2 おう、叫び散らしてよ。

男3 人がやつてる後ろでうるせえうるせえ。

男1 どうか気をやるのに苦労したぜ。

男2 しまいにや自分もやっちゃうんだから全く世話がねえや。

男1〜3 ははっははは。

男4 笑うな…。

男1 何だよ、やけに神妙じゃねえか。

男4 お前から自分達が何をやったか分かってるのか？

男2 夜這いよ。

男4 あれが夜這いか。

男2 夜這いさ、お前だつてやったらうが。

男3 相手は死んでたがな。

男1 ひひひ。

男2 雪山の中で女の骸を見つけた時にや心臓止まるかと思ったが。

男1 ああ、おかげさんで腐りもせず生きてた時のまんまだな。スベスベしててよう。

男3 おユキのやつ、もともと色白だったが仏さんになってますます色白になりやがつて。

男2 体の中が冷たいつても一興だたなや。

男1〜3 あはっははは。

男1 こいつ(男4)に仏さんを会わせた時の顔っていつたらな。

男3 ああ、キチガイの顔がますますキチガイらしくなりやがって。

男4 お前らは何て事を…。

男3 あん？

男4 おユキは巫<sup>かんなぎ</sup>ぞ。

男3 承知よ。

男4 カンナギは神様の嫁子だ。神様の嫁子はおぼこでなきやあなんねえ。そうでなきやあ

神様を胎<sup>ほら</sup>に入れることも声を聞くことも適<sup>かな</sup>わねえ。

男2 死んでおぼこもあるもんかね。

男4 死のうがカンナギ様はカンナギ様よ。罰当たりかろう。

男1 ふん、罰当たりなのはお前<sup>めえ</sup>の方だ。

男4 …。

男1 お前は生きているうちからおユキと好き合っていたではないか。

男3 おう、そうよそうよ。

男2 村の大事な巫様かんなきさまと恋仲つてのは、こりやあ頂けないぜ。

男4 だが指一本触っちゃいなかった。お前らがおユキの骸に手を出すまではな。

男3 へへ、言い訳かよ。見苦しいねえ。

男4 …。

男3 確かにお前はおユキのおぼこをやっちゃまったわけじゃねえ。おぼこをやったのは俺だからなあ。

男2 次、俺。

男1 それから俺。

男3 お前は四番目だ。だがな、神様にチンポ差し込んだ順番が最後だとつみとが罪科も一番軽くなるのか？ 違うだろう。

男4 おユキと約束したんだ。死んで生まれ変わるまでお前にや指一本触れねえつてよ。

男2 ひひ、女との約束破つちまったんでいちいち落ち込んだのかね？

男3 善人ぶりやがって。

男4 …。

男3 手前てまえだつておユキをやったんだからな。

男1 それも一番長いことよ。

男1〜3 ひやははっは。

男3 お前、うちの女房ともやったらう？

男1 ほう。

男2 本当か！？

男4 …。

男3 お前がおユキに惚れてるのに向こうはちっとも相手にしてくれねえからよお。いじけるおめえが可愛想になつて抱かれてやっただとよ。

男2 ひひひ。

男1 みつともねえなあ。

男3 まあ、俺も人のことは言えねえが。

男1 おう、そうよそうよ。

男2 この村の男だつたら誰だつて何回かはおあずけを食わされてるんだからよお。

男1 要はやれる女とやりやあいんだな。

男3 お前(男2)の女房に断られた時はこいつ(男1)の女房とやればいいし、それも断られ  
たら他の奴の女房とやればいい。

男1 何だお前は、他人ひとの女房にしか興味がねえのか？

男2 そういえば村長むらおきんところによ、今年十一になる娘がいたよなあ。

男3 ああ、色気づいてきたしそろそろやつちまってもいいんじゃないか？

男1 おうよ、年増ばかり相手にするのも飽きがきてたところだ。

男2 おい、おぼこは気をつけろよ。初モノに手をつけるのは親父の仕事だからよお。

男3 そうだ、下手に怖がらせるとおユキみてえにやらせてくれねえ女になっちゃうぞ。

男2 お前、おユキに何回断られた？

男1 二回だ。

男2 俺、二回。

男1、2、男3を見る。

男3 俺は五回よ。

男2 うげ。

男1 上手がいやがった。

男3 俺はこの村で寝てねえ女はいなかったんだ。おユキが来るまでだな。

男1 けっ、自惚れてやがるぜ。

男2 俺だっっておユキ以外の女はあらかたやつちまったんだよ。

男1 この村の娘は男衆みんなの嫁なんだからな。みんなの。

男2 へへ、そうよ。それがこの村のいいところだぜ。

男3 おユキが来た時は、そりゃあもう村を総出で喜んだもんだ。特に男が。

男1 ありゃあ、いつだったか。立川の山奥にある偉え神社が燃えちまつて……。巫女さんが

一人焼け出されてきた。

男2 色の白え無垢な姿でなあ。長旅で汚れちゃあいたがよ。

男3 聞きゃあ、神様の声を殿様やなんかに伝えるすげえ巫女さんだっけ言うじゃねえか。

男1 当然、どつかの偉い侍が引き取りに来るもんかと思っただらあ。

男2 おユキはこの村に居座ると言い出しよった。

男3 惚れた男でもできたんじゃねえのか、この村に。



男1 ああ、わるい巫女さんじゃ。

男1、2、3、男4を睨む。

男2 で、男は喜んだ。村に住むつてことは慣わし通り、村の男の夜這いに応えねばならんからな。みんなおユキとやれると思つておつた。

男1 …ところがあいつは村のどの男とも寝なかつたんだ。神様の嫁さんだかなんだか知らないが、まぐわいは不浄だとかなんとか言つてな。

男4 …。

男2 怒つたね。村中が怒つたよ。男だけじゃねえ。

男1 男どものあつちの面倒を見るのは村の女どもの仕事だからよ。何を自分だけ取り澄ましてやがるんだつてなあ。うちのカミさんもおかんむりだつたぜ。

男3 だからよお、仏さんとやつちまつたくれえでメソメソすんな。な。

男1 村のもんは誰も責めねえから。

男2 明日の朝、おユキを棺桶に突つ込んで埋めちまえばそれでお仕舞えよ。

男1〜3 ははははははは。

男4 俺は恐ろしい。

男3 あん？

男4 おユキを抱いている最中……女はずっと俺を睨んでいた。

男1 死んだ女がか？

男2 へへ、阿呆らしい。

男1 ビビり過ぎだぜ。

男4 俺だつて男だ。何度かおユキとやろうとしたことぐれえある。だがな、その度に俺はひ

でえ劍幕でこう言われた。「あたしに触れたら神罰が下る。必ず死ぬ。あたしを犯した

らば七度ななたび生まれ変わろうと追いかけていつて殺す。私を殺したなら魂は生き残り、お

前に憑りとついてやろう。そしてお前は狂う。狂うて人を殺す。自分も死んで地獄に落

ちる。」

男3 コケおどしだぜ。

男2 そうよ、俺達だつておユキをやったんだからな。

男3 俺は睨まれている感じなどいつこうせん。

男2 ああ。

男1 考えようによつては得なことだぜ、おまえ。生きておユキとやったってことじゃないかね。

男3 おう、そうよな。

男1〜3 あははっははは。

男4 なあ。

男3 おう。

男4 おユキはどうして死んだんだ？

男1〜3 ……。

男4 なんで一人して吹雪の山なんかに入つて行つた？なんで俺を残して死んだ？

男1 そらあ、おめえ…お前が分からねえもんを俺達に分かるはずねえよ…。

男2 まあ、あれでないか。カンナギ様になんて生まれちまつた自分の身の上をはかなんでよお。

男4 ……。

男2 このまんまじやお前と添うコトだつて出来ねえからな。なにしろ目の前にいる好いた男とやれねえとあつちやあなあ。

男1 そうだ、うん。

男2 まあ、そんなとくだわな。

男4 ……。

男3 ……やったのよ。

男1 おい……。

男3 生きているおユキをきんざ犯してやったのよ。こいつらと三人で。

男1・2 ……。

男4、男3を睨む。

男3 この村のやり方に従わない奴を懲らしめただけよ。なあ。

男2 おう……まあな。

男3 お前が自分の女に村の決まりを教えねえから俺達が代わってやっただけじゃねえか。

男4 ……。

男3 お前はおユキのヤツとつき合うようになって汚れるのを嫌がるようになった。

男1 ああ、連れ立って夜這いにも行かなくなったしな。

男2 坊主みてえに身持ちが固くなつたぜ。女にもあんまり触らなくなつちまつたしよ。

男3 お前はこの村の人間じゃあなくなつちまつた。てめえだけ身ギレイになつたつもりで悦に入つてるのよ。

男4 …。

男3 で、俺はそこが気に入らねえ。こいつらもだ。だよな？

男1 ああ、おう。

男2 そうだそうだ。

男3 お前にも汚れてもらわなきゃあならねえな。村の一員としてよ。

男4 …やめろ。俺だつて死んだおユキを犯したじゃねえか。

男3 違うな。お前は俺達に犯されちまつたおユキが不憫だつたのさ。不憫だから最後に自分が抱いてやつたんだよ。好いた男に生涯一度も抱かれずに、ワケの分からねえ野郎のチンポコ入れられただけで死んじまうおユキがよ…これじゃあ浮かばれねえと思つたんだ。なあ、そうだろう？

男4 ちが…。

男3 嘘つくんじゃないよ。俺達がやつちまつて汚したおユキの体をてめえが抱いてキレイにしてやった。そう思つてんだろ？

男2　なんだと、俺達のやったこととお前のやったことは同じじゃねえか。

男1　そうかね、だから珍しく俺達の夜這いにノコノコとついてきやがったのか。

男3　だよな……。 (男4に)

男4　。。。

男3　おう、俺達が生きていたおユキをどう犯したのか、見せてやれ。

男1　なに？

男3　そこでおユキとやったように実際見せてやりやあいんだよ。

男2　だつてお前、おユキがいねえよ。

男3　お前、いいもの着てるじゃねえか。

男2　は？

男3　おい、こいつ(男2)をおユキに見たてろや。

男1　男とやるのか!？

男3　フリでいいんだよ、フリで。

男2　やめろ、おめえ折角の戦利品に男のニオイがつくじゃねえか。

男3　お前が着てる時点でもう台なしだぜ。

男2　そうか？

男2、経帷子のニオイを嗅ぐ。

男3 ほら、今ならまだおユキのニオイがするぜ、やれよ。

男1 お、おう。

男2 やめろ、こら！気持ちわりい。(笑いながら)

男1 まず、こう押し倒しよう。

男4 …やめろ。

男1 で、どうやったつけ？

男3 口を塞いだな。で、着物をはだけてよう…。

男1 おお、そうだった。

男2 ひ…ひひひっひ…。やめろ、気持ちわりい。ムグ…。(口を塞がれる)

男1、腰を使う。男2、笑い続ける。

男1 どうも気分でねえな。

男3 おい、笑うな。

男2 ひひひっひ…だつてよお。こんな情けねえ格好生まれて初めてだからよお。ひっひ…。

男3 そいつでも被せておけや。(男1の雪蓑を示す)

男1 へ…なるほど。

男1、男2の顔に雪蓑を被せる。

男2 ひーっ、汗くせえ。(なお笑い続ける)

男3 そうそう、あの時も白い寝巻きを着てよ、で、なげえ髪で顔が隠れてな。…丁度あんな風に引きつけちまつて…。

男2 笑ってるのかと思うぐらいだったぜ…ひひひー。

男1 笑ってたのかも知れねえわな、案外。

男3 ははは。

男1 気がおかしくなると人間笑うんだ。

男2 ひひひっひひひひひ！

男4 睨むな。



男3 まだそんなこと言ってるのか？

男1〜3 ひやはっははは！

男3 よく見ろよ。人間は汚ねえんだからな。今日お前がやったことは俺達とちつとも違う  
こたあねえんだぞ。

男4 違うんだよ、おユキよお。(あらぬ方を見ながら)

男3 あん？

男4 済まなかったおユキい。俺はおめえがただただ好きだよ。好きで好きで…骸のおめえ  
とやっちまったんだ。目の前で犯されるお前がただただ不憫だよお…我慢できなかった  
あ。(泣く)

男1 へっ、格好つけやがって。

男3 ああ、ただやりてえだけのコトに白々しい理由つけて、自分はまだ童貞みたいな気でい  
やがる。

男1 おお、鳥肌が立つぜ。

男2 …っひ…っひ。(白目をむいて引き付ける)

男4 やめろ…カンナギ様の怨念は七生たたるぞ。

男1〜3 ひやはっははは。

男1と3、口々に馬鹿にしながら笑う。

男4 おめえらも俺も憑りつかれつぞ。憑りつかれた奴は気が狂う。気が狂って、気が違つて

最後には……。

男3、手に持っていた鉈を男4に向ける。

男3 黙れ。

男4 (目があらぬ方を凝視している。小声で女の呪いがいかに恐ろしいか呟き続ける。)

男3 黙らねえと俺がお前を殺す。

男4 (呟き)

男3 そうだ、こうして俺はおユキを脅しつけたんだ。おユキは一步も動けなかったぜ。なあ、ちつとでも逆らいやがったらお前もミノキチも殺してやるといったらよお。涙を流しながら大人しくなりやがって。

男4 (眩き)

男3 黙れ。

男4 (眩き)

男3 黙れ！

男4 (眩き)

男3 …。

男1 …っはっは。(男1、すっかりその気になっている)

男3 どけ！(男3、男1を蹴倒す)

男1 何すんだ、おめえは！

男3 俺がやる。

男3、男2と交わる仕草をする。二人の手には鉋が握られている。

男3 …っはっは。そうだ、俺はこうやっておユキを犯したんだ。尻の穴までなあ。よく見ておけ。人間は汚ねえんだからな。今日お前がやったことは俺達とちつとも違うこたあねえんだからよ。

男4 (呟き)

男3 何を怯えるか。この村のやり方に従っただけよ。従わない奴を懲らしめただけよ。お前も従え。そうすりゃみんなが上手く行く。

男4 (声ボリユームアップ)おめえらも俺も憑りつかれっぞ。憑りつかれた奴は気が狂うん

だ。気が狂って、気が違って最後には…。

男3 うるせえ！(男4のほうに向き直る。鉈は放す。)

男4 殺されるう。

男3 …。

男4 …。

男2、鉈を掴んでゆつくりと立ち上がる。(客席から顔が見えないように)男1と男4、その姿を、やはりゆつくりと眼で追う。男2、鉈を頭上に構える。異常な雰囲気を察知した男3、やや振り返る。蝋燭が消える。

完